

研修報告書 No.12

研修先：土佐市民病院

私は1ヶ月間土佐市民病院で地域医療研修を行いました。短い間でしたが、研修に際し関わってくださった全ての方々に感謝申し上げます。

業務内容は主に外来研修、病棟管理、救急対応でしたが、その中でも外来研修は貴重な経験となりました。基幹型の研修病院では、どうしても外来診療というと救急外来での診療が多くなります。このため内科外来に来た患者さんを自ら診察し、検査の必要性を検討し、処方をするという一連の流れを指導医の指示を仰ぎながらではありますが、一人で行うという経験はあまりなかったので、大変貴重な経験となり、有意義な時間になることができました。最初は慣れなかった業務も毎日繰り返すことで徐々にこなしていけるようになり、外来での患者さんの捌き方を自分なりに工夫するよう心がけていました。研修病院での「外来は時間との勝負」という指導医の言葉を実際に身をもって感じ、今回の経験を今後の糧にしていきたいと思いました。

土佐市民病院で感じたことは、長寿の方が非常に多いということです。90歳を超える患者さんも多いように感じました。高知県では、東京と比較すると少ないのかもしれませんが、高齢者の独居も少なくないと感じました。その居住先も散在しており、病院への交通手段が限られているため、場合によっては自分自身では病院を受診できない患者さんもいました。公共交通機関で来院しようとするバスの本数が少なく、患者さんが外来受付枠の時間を過ぎてから来るというようなこともあり、医療者側も随時柔軟に対応する必要があることを実感しました。必要に応じて定期的に来院できるようケアマネージャーを導入している患者さんもいました。

上級医からも「ここでは早く退院させることが良いこととも限らない」という話を伺いました。私の所属する病院では状態が改善した患者さんの早期退院が推奨されています。地域では早期退院し、外来でのフォローを行うことが患者さんの負担となること、受診中断の要因ともなり得るということに気付かされました。入院継続することで体力低下につながり、退院後の自宅での生活が困難になることを避けることも大切です。一方で、早期に退院してしまい、その後の通院手段がなく通院困難になることを考慮すると入院期間の延長はやむを得ず、入院継続しながら患者さんのADLを保つように努めることが重要なケースもあると感じました。また、患者さんがどのような場所に住んでいて、どのような生活環境に置かれているのかが退院後の通院コンプライアンスに関わる重要な因子となるため、把握が重要だと気付かされました。東京では電車、バス、タクシーなど、高齢者の独居であっても交通手段は多く、早く自宅に帰りたいという希望の患者さんも多いです。実際に、所属する研修病院の昨年度の平均在院日数が9.2日であることに対して、土佐市民病院では過去3ヶ

月(令和5年9月～11月)の平均在院日数は15.1日でした。病院としての役割が多岐にわたり、地域とのより密な連携が重要であると気付かされました。

1ヶ月の研修を終えて、病院全体の雰囲気が良く、診療科同士、医療スタッフとの垣根が非常に低く、いつでも相談しやすい環境であると感じました。慣れない環境で様々な面でご迷惑を多々おかけしてしまったと思いますが、どんな時でも熱心に教えてくださり、素朴な疑問まで親身になって答えてくださった先生方には感謝しかありません。改めて土佐市民病院で地域医療研修ができて良かったと感じております。今後も土佐市民病院で学んだことを糧に精進して参ります。ありがとうございました。